



# 超高層マンションにおける オンライン環境を活用した 安否確認体制の構築



東京都中央区DEUX TOURS防災区民組織  
会長 清水 隆史

## 1 はじめに

DEUX TOURS（ドゥ トゥール）は、中央区晴海の朝潮運河沿いに建つ、平成27年9月に竣工した、地上高173m、地上52階地下1階建て超高層マンションです。管理組合理事をはじめとする住民有志で結成した「DEUX TOURS防災区民組織」が中心となり、防火防災訓練を年2回実施しています。本稿では、2020年からのコロナ禍と時を同じくして当組織が取り組んだ、安価かつ特殊スキル不要なオンライン安否確認体制構築の取り組みについてご紹介します。

## 2 超高層マンションにおける 安否確認の課題

首都直下地震等の大災害に見舞われた際、超高層マンションにおいては、その居住者数と比較して防災センターや災害対策本部への連絡手段がインターホン、非常用電話等、極度に限られていることから、要救護者の迅速な把握および救護の両面において、複数の居住者と即時・双方向に連絡できる手段が求められています。

## 3 SNSを活用した オンライン安否確認体制構築

災害時の共助・公助の基礎となる住民の安否確認をコロナ禍における「新しい日常」を踏まえた「非接触型」で行う体制を構築しようと、下記の4段階で検証及び改良の取り組みを積み重ねてきました。

(1)「安否確認カード」と「防災フロアリーダー」による安否確認訓練（2020年11月実施）

訓練開始後、居住者が各住戸の扉に紙ベースの安否確認カードを掲出し、各階の事前に指定された「防災フロアリーダー」が階ごとの安否情報を指定報告用紙に集約。同リーダーがその結果を2階エントランスに設置された災害対策本部に持参し、報告することで、住民同士の接触・対面を最小限に留めた安否確認訓練を実施した。

(2) SNSアプリ（LINE）を活用した「居住者」によるオンライン安否確認訓練（2021年6月実施）

「安否確認カード」と「防災フロアリーダー」による物理的な連絡手段に加えて、LINEを用いることで、より迅速かつ高効率な災害対策本部と住民間の連絡手法を確立した。

①訓練に先立ち、館内に設置のデジタルサイネージ等の掲示板にて居住者に本訓練開催を周知すると同時に、SNSアプリ（LINE）上に作成したマンション公式アカウントへの登録を促す。

②訓練当日、全館一斉放送及びLINE公式アカウントからのメッセージ配信により、訓練開始を伝達すると同時に、LINE公式アカウントが『災害時モード』に切り替わり

回目	実施時期	居住者自身による 安否報告	防災フロアリーダーによる 居住フロアの安否・通報報告
1	2020年 11月	なし	各住戸扉の郵便受けに投入頂いた 安否確認シート（紙）の内容を、 フロアリーダーが指定報告用紙に記録し、 2階本部に赴き <b>対面報告</b>
2	2021年 6月	オンライン安否報告フォーム を用いた <b>非対面報告</b>	実施せず（コロナ禍の為）
3	2022年 5月	オンライン安否報告フォーム を用いた <b>非対面報告</b> （報告フォーム書式改良）	各住戸扉に掲示された安否確認カード（紙ベース） の内容をフロアリーダーがオンライン安否報告フォーム へ入力・伝達する <b>非対面報告</b>
4	2023年 6月	オンライン安否報告フォーム を用いた <b>非対面報告</b> + LINEを用いた本部への 直接救助要請	上記オンライン安否報告フォーム式 <b>非対面報告</b> （報告フォーム書式改良） + 専用LINEオープンチャットを利用した オンライン <b>双方向連絡体制構築</b>

(写真参照)、これをタッチすることで遷移した安否登録フォームから居住者各自で安否情報を登録・送信してもらう。

- ③送信された安否情報は、災害対策本部に設置されたパソコン上でExcelに即時集約され、各戸の安否情報や回答率等がグラフ化され一括管理できる状態となり、緊急度の高い要救護者の把握が迅速に行えるようになった。



- (3)「防災フロアリーダー」によるオンライン報告体制の確立 (2022年5月実施)

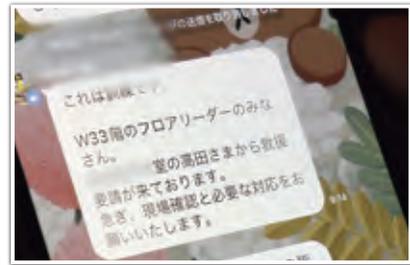
(1)の安否確認訓練では、「防災フロアリーダー」が2階災害対策本部へ直接出向く、「対面報告」を行っていたが、より迅速かつ「非対面報告」実現を目的に、フロア



リーダー用の安否登録フォームを作成し、確認した各住戸の「安否確認カード」掲出状況をオンラインで報告できる体制を整備。

- (4) LINEを用いた本部への直接支援要請および防災フロアリーダー間相互協力体制の確立 (2023年6月実施)

- ①LINEに付属しているチャット(文字通信)機能および通話機能を用い、居住者から災害対策本部への直接の救護要請訓練を行い、効果を確認した。



- ②LINEに付属している「オープンチャット」という、参加者間のプライバシーが守られるグループラインを「防災フロアリーダー」を対象に設け、優先度の高い要救護者の更なる迅速な把握、および階をまたいだフロアリーダー相互の協力体制を試行した。その結果、全フロアリーダーの3割弱の登録を得て、即時・双方向性連絡手段の効果が確認できた。

上記各種訓練終了後は、成功・高評価事例、及び要改善事項を取りまとめ、消防署・区役所防災課等の講評も取り入れ、都度次回の訓練の発展に活かしています。

## 4 今後の活動計画

本安否確認システム導入に興味を示してくれた、近隣防災区民組織や自治会に対し、同様のシステム構築サポートを始めました。そこで得た学びを更なる改善につなげていく予定です。

## 5 受賞記録

第19回地域の防火防災功労賞最優秀賞受賞 (2023年1月)、東京消防庁主催。